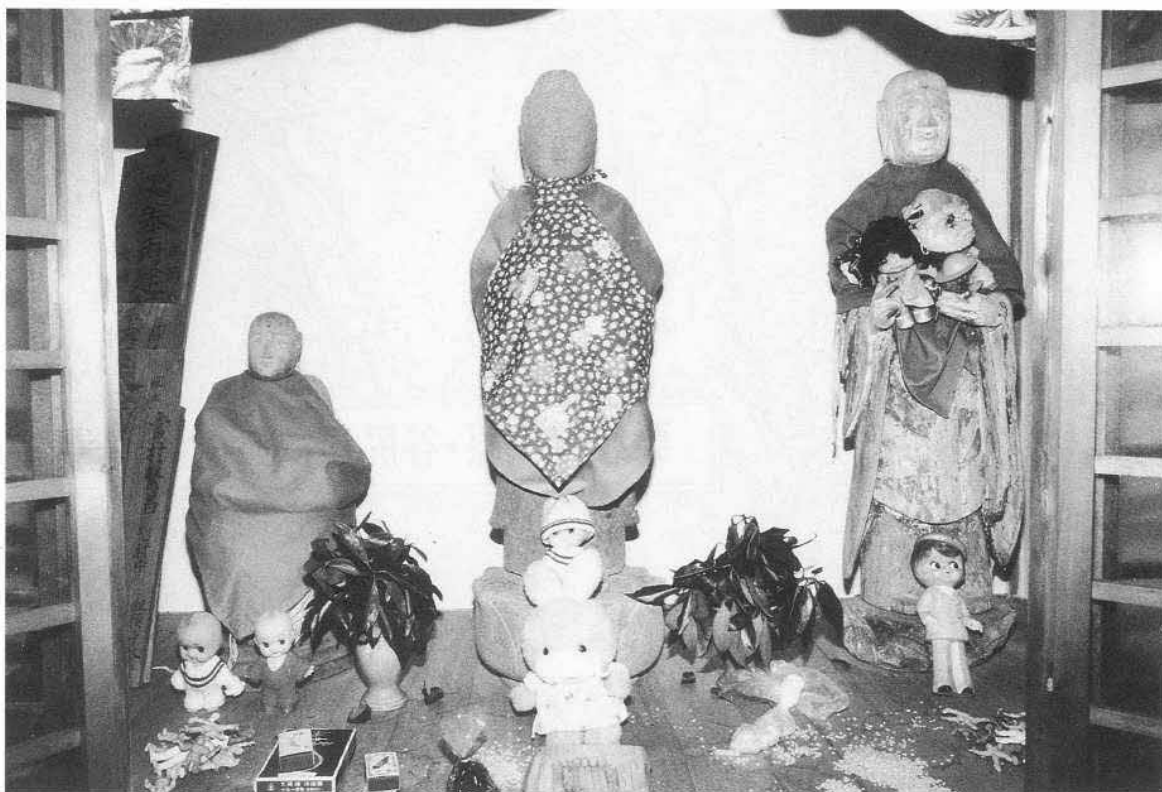




広原の阿弥陀堂

所在地 大竹市栗谷町広原
像 高 七十七cm

彫刻の形式 丸彫り立像

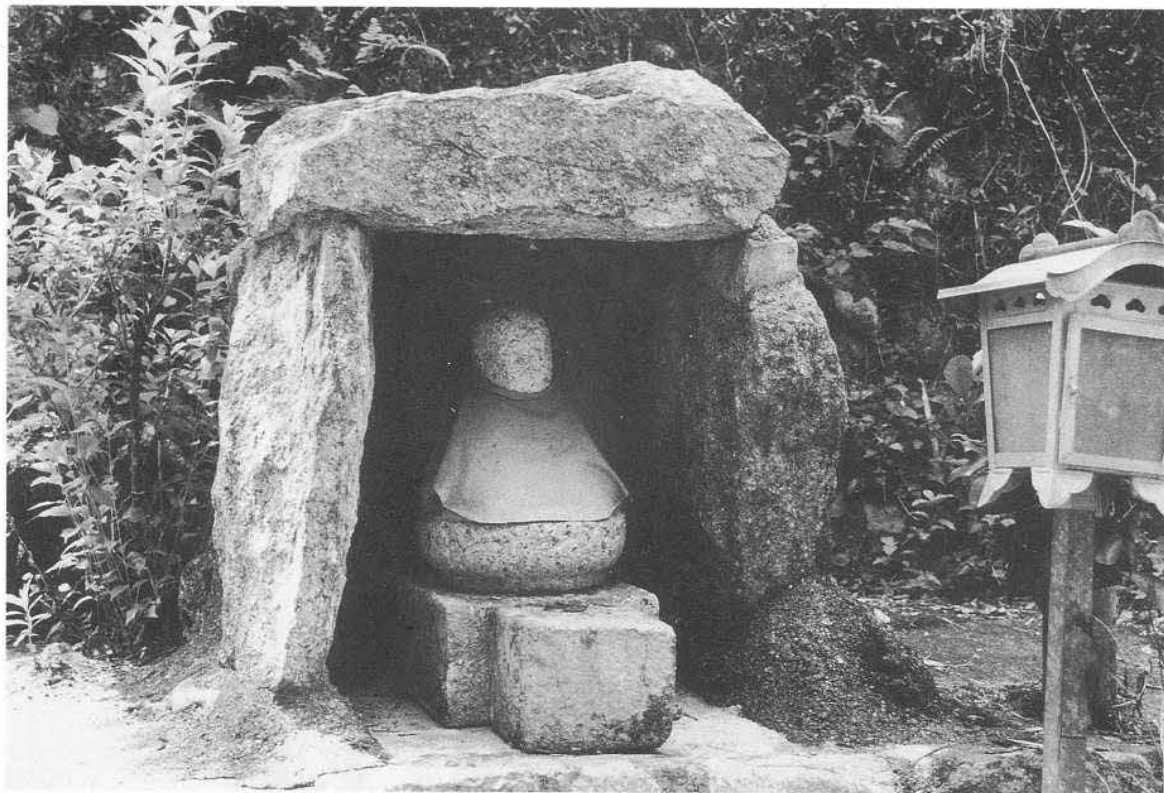
石の種類 花崗岩

広原は、大竹市の北端に位置し、佐伯郡大野町と一部佐伯町に囲まれた飛び地で、昔から交通の不便な所であった。病人がでても医者はいなくて、勢い、神仏に頼ることとなり、信仰の厚い土地柄である。

この阿弥陀堂には、中央に阿弥陀如来立像（石仏）、右に地藏菩薩立像（木像）そして左に地藏菩薩坐像（木像）がある。

石仏の阿弥陀如来は、その昔周防の国山代（現・玖珂郡美和町方面）から譲り受けた。

広原の力持ちの若衆が背に担いで小瀬川を渡り、三倉岳の山裾より東にとつて、急な坂道を休みながら牛ヶ峠を通つて帰つてきたという。そして、広原に至る最後の峠を「仏峠」と今も呼んでいる。



谷尻の境守り地蔵

所在地 大竹市栗谷町谷尻
像 高 三十二cm
彫刻の形式 丸彫り坐像
石の種類 花崗岩

県道栗谷線が、谷尻の集落を東に抜けた辺りから左側の小道をおりた所にある。

山間地に多く見られる、村を護る地蔵で、橋のたもと・峠道など「内なる世界」と「外なる世界」の出入口に立ち、生活共同体を脅かす様々な悪（病氣・田畑を荒らす害虫）の侵入を防がれるのである。

悪と善とは良く見分けられ、善は「内なる世界」にお通しするといわれる。

ここは、玖島川の流れのすぐ傍のため、洪水の度に、家族総出で地蔵さんの避難を繰り返し、守ってきた。

しかし、昭和二十六年のルース台風では、夜半突然の鉄砲水のため、

手を差し伸べる事ができず流失。現在の地蔵さんは二代目として、その役割を担っている。

春と秋の彼岸には、安楽寺の和尚さんを招き、法要が営まれる。

また、西の端に同じ境を守る地蔵尊として、「橋詰地蔵」が祀られている。



後原の割山地蔵

所在地 大竹市栗谷町後原
像 高 三十八cm

彫刻の形式 丸彫り坐像

石の種類 花崗岩

大竹市には、周囲を佐伯郡大野町に囲まれた飛び地が六地区あり、そのうち集落があるのは四地区である。

後原はそのうちの一つで、中央を流れる玖島川を挟んで集落が点在する。

後原の登里橋を北に渡ると半島のように突き出た山がある。

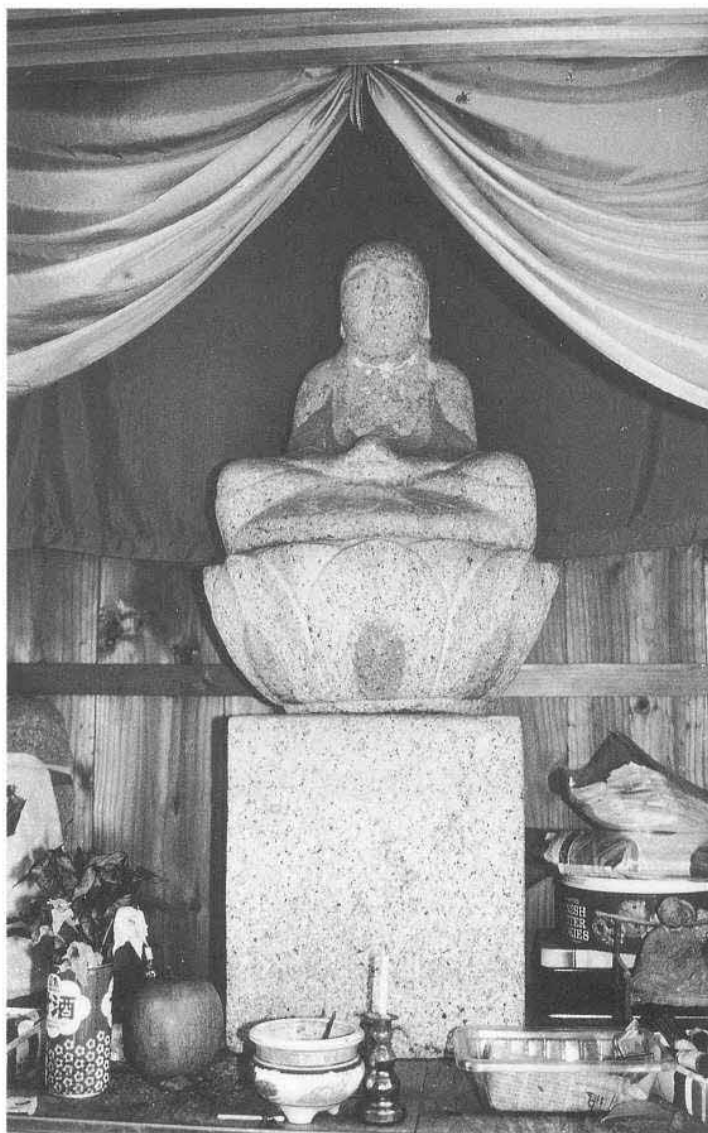
その昔、村人により裏山の土地割りを決める際、この突き出た山は村で管理することにしたことから、割山といわれるようになった。

佐伯八十八ヶ所の霊場として、春秋の彼岸の入りから彼岸明けにかけて、よそからも多くのお参りがあつて地区の人たちが総出で接待されるという。

この地藏さんは、「上半身の病」に御利益があるといわれる。台座に、「寛政四歳子 願主 友蔵

(一七九〇) 閏二月吉祥日

と刻まれ、二百年の信仰が続いている。



後原うしろはらの三王大権現

所在地 大竹市栗谷町後原
塔 高 七十八cm
彫刻の形式 自然石文字彫り
石の種類 花崗岩

後原の登里橋を渡り、昔の廿日市への街道を約1km北へ進んだ所に、百年を超す街道松がある。その傍に「三王大権現」という文字が刻まれた自然石の石柱が立っている。

地区の人々は、この石柱を山の神「三王さあ」と親しみをこめて呼んでいる。

これは、石神仏の中で「石神」として位置付けられる。



江戸時代から鎮座し、現在も佐古田神社の秋の大祭の折り、佐伯郡大野町大歳神社の神主を招いて、祝詞（のりと）をあげてもらい山仕事の安全を祈願している。
現在も、地元の人々の厚い信仰が続いている。

権現

仏・菩薩。その本地を隠し神となり、あるいは人となり、もって衆生を救済すること。



谷和の子好き地藏

所在地 大竹市栗谷町谷和
像 高 三十一cm

彫刻の形式 丸彫り坐像

石の種類 花崗岩

この谷和の地藏菩薩は、子供が大好きで、元気な子供達の遊び声を聞いていつも温かい笑顔で見守っておられる。

市域で一番の高地海拔四百五十mの集落なので、交通が不便。一番心配されるのが、子供の病気やけがである。それを一生懸命治して下さると信じられている地藏さんで、昔は子供を連れてお参りし、持参した小皿のご飯を、地藏さんのお口につけてお祈りしたという、何とも微笑ましい地藏信仰である。

台座に「文化十一年（一八一四）戌十一月法界」と刻まれている。